

続ままならぬ Ham Life

JA1WOB 齊藤

※ TOW-FORTY 85号からの続編です。※

1973年にQRT状態になりましたが、時々受信して居ました。また、年に1回位はCQ誌を購入しては、アマ無線業界の情報収集はしていました。

75年に町田市のアパートから東大和市の都営団地にQSYして平屋の集合住宅だったので、屋根の上にTV-Antを設置すると同時に、50MCの4エレの八木を設営しました。

RIGはミズホ通信のMK-610のAM/CWで2W機でした、CWモードがありましたのでSSBも受信はできました。

しかし、運用時間は全く取れずログを見ると、50MCのAMで75年に5局、77年に8局、81年には少し増えて22局ですが2~3年に数回の交信でした。

それでも再免許手続をした、82年は復活の兆しがありJARLにも入会して50局、83年は25局と交信しています。

今の移動運用で交信する1日分を1年掛かっていた事になります。

80年代は会社の同僚から借用した、FT620で50MCのSSBにQRVしていましたが、台風で4エレ八木が破損してからはまたも、QRTとなりました。

1990年になって子供達も成長し仕事も落ち着き自分の時間が持てる様になりました。

今度は本格的に開局すべくCQ誌を眺めていると、HF+50MのRIGと50M, 144M, 430MのモノバンドRIGが誌面を賑わしていました。

いろいろと検討を重ねた結果、IC-726とTS-680のHF+50MのRIGに絞りました。早速、秋葉原へ実機を確認する為に出かけました。



始めに驚いたのは、小さくコンパクトになっていた事です。

HF 機で小さくなってとしても、FT620やFT625位の大きさと思いきんでいました。

また、周波数表示のアナログダイヤルはなくなり、デジタル表示になっていたことです。更に、驚いたのは周波数の変更をしても、ファイナルのチューニングをするつまみが無い事で、暫くRIGを触った後、店員に「ファイナルの調整つまみ何処にありますか？」と質問した。

答えは「お客さん、今のRIGにファイナルの調整は必要ありません」でした。

それから暫くして、所沢にある某XXスポットへ行ってIC-726とTS-680の価格交渉の結果、当時10W機と100Wの価格差もありANTやローテーターの新調もあったので、IC-726Sに決めました。

また、50Mhzに関してはIC-726も726Sも同じ10Wが決めた理由でした。

店の主人から「モバイルですか」と聞かれましたが、当時はモバイルを全く考えていませんでしたが、後から思えば当時のコンパクトHF+50MhzのRIGで正解でした。

4エレのHB9CVとローテーターは在庫ありウキウキしながら持ち帰りました。そして帰宅後に早速設置して、MK-610で受信しました。

しかし、IC-726Sは在庫が無く首を長くして1週間待ちました。

1990年7月21日、JA1WOBが再開局しました、当日のログを見ると、12時から18時の間に10局と交信しています、6エリアが開けていた様で3局とQSOしています。

そして、90年の12月末までに143局となり本格的な再開局となりました。

90年の10月に故JH1AQZの信太OMと交信していますが、この時に240メンバーの認識はありませんでした。

また、91年2月にJA1RIZの久保田OMが本仁田山に移動した時に交信していますが、240メンバーの認識はありません



91年の2月にJA7EBTの杉田OMとの交信で、50.240SSB モービルグループの存在を知りました。

91年3月に50.240SSB モービルグループのロールコールに初参加しました、そして50MのSSBモービル運用を開始しました。

RIGはIC-726Sを固定から外してカマリのダッシュボードに設置しました、ANTは144MHzの5/8が有ったので、50MHzの1/4として使用していました。

5月の電波伝播実験は六道山から初参加しました。

実験終了後に入間郡名栗村の蕨山に移動していた、JA7EBT/1 杉田OMの所まで移動して、50.240SSB モービルグループメンバーとの初アイボールとなりました。

その後、240各局のアイボールなどでRIGとアンテナを見せて頂き RIGはモービル専用機が多くTR-9300 FT-680 FT-690MKII などが多く ANTは5/8、1/2、3/8 などが多く全長2m以上がほとんどでした。

早速、コメントの1/2 CHL350を取付けてグレードアップしました。

このCHL350は50Mと29Mの2BAND対応でIC-726のHF+50のモービル運用を楽しませてくれました。

通勤モービル中に29MでHLやZLとコンタ外が出来ました。

しかし、固定とモービルの兼用RIGでは運用が煩雑なので、92年のT-ZONE 初売りセールを買出しに、朝4時起きして一番電車に乗って店の前に並びFT-690MK2の中古を購入しました。

これで、やっとモービルと固定で別々の運用が可能になりました。

しかし、FT-690MK2 単体では2.5WのQRPのため山に移動して2ELEのHB9CV



などのANTでQRVするにはFBなのですが、モービルの2.5Wではいくら相手局が5/8ANTでも厳しいものがあります。モービル通勤途中にあった、羽村市のハムショップでFT-690MK2専用の10Wリニヤアンプがあったのでこれを仕入れてモービル運用も10W

運用が可能となりました。

また、山の移動運用の 10W で HB9CV は強力な電波なのでパイルを浴びる満足感が得られました。

東大和市の固定から羽村市の職場まで約 1 時間のモバイル運用では同方向のモバイル局が 5～6 局いましたので、FB に繋ぐ事が出来ました。

しかし、都内や神奈川方面のモバイル局との交信では、相手がノイズ地帯に入ると交信困難となる事がありました。

5/8λにするか、パワーアップにするかを考えた時に、5/8λの3.4mもあるANTをモバイルに取付けるには、家庭のマッチング調整は困難と考えて50Wのパワーアップを計画しました。

まずは、電話級から2アマ以上の従事者免許が必要になるので、2アマの無線従事者に必要な勉強を開始しました。

難関なのは、CWの受信でA～Zと1～0の符号は電話級取得後に少し練習したので、覚えていましたが1分間45字のスピードは速く全く取る事は出来ませんでした。

1分25字の3アマスPEEDから再度やり直しある程度読み取れる所で45字にスピードアップしました。

そして1994年に2アマを取得して、1995年から50MHzはHL66Vを付加して50W出力が可能となりました。

ところが、この頃からマンション住まいとなった事で固定の4エレHB9CVは1/2λの水平ツェプと3/8λの垂直モバイルANTになりました。

4エレHB9CVの可変ビームと1/2λの水平ツェプ固定ビームでは大きな差がありました。

カスカス、で聞こえて来る局も可変ビームなら、41から55～57になる事もしばしばありましたが、固定ビームでは垂直と水平を切り替える事しか出来ませんでした。CQを出して呼ばれているのは、分かるけど内容がコールが分からず、呼んで頂いた局



に失礼した事もありました。

この辺りから、移動運用の回数が多くなりました。

初めの移動運用は、車でロケーションの良い所に出かけてQRVしていましたが、担ぎ上げでの移動運用も多くなりました。

FBなロケーションからの運用は、なんと言っても、ノイズが少なく受信レベルが上がる事です。

QR P 100mw の局が、FBに入感してくる事です。

信号は強力ではありませんが、RS51 のメリット 5 なのです、そしてQR P 局から「ピックアップして頂きありがとう」の言葉に、こちらも嬉しくなります。

奥多摩や秩父の低山が中心ですが、山からQRVはとても楽しく、固定での「ままならぬHam L i f e」を移動運用で楽しんでいます。

HOME-P A G E に移動運用の様子を掲載しています。

URL はこちらです <http://www.geocities.jp/jalwob/index.htm>

2005年11月23日日の出山移動運用

日の出山へ登るコースは幾つかありますが、今回は五日市街道を下りJR五日市線の武蔵五日市駅から日の出町へ入り三沢方面へ向かい梅ノ木峠から登りました。



梅ノ木峠



山頂近し



日の出山山頂(902m)

山頂は結構広く東京方面が一望出来るし条件が良ければ横浜方面の海もFBに見えますが当日は薄曇りのため、眺望はいまいちでしたが、FBなロケーションの為電波の飛び内は良く



50M/HB9CV



東京/千葉方面



運用テーブル

東京・千葉方面からの信号は強くFT-817、2.5w HB9CVの設備ですが59+のレポートでした。2時間程の運用で30局とコンタクト出来ました。コール頂い各局有り難うございました。

思う様な、Ham L i f e はなかなか出来ませんが、工夫しながらこれからも、楽しみたいとおもいます。

おわり